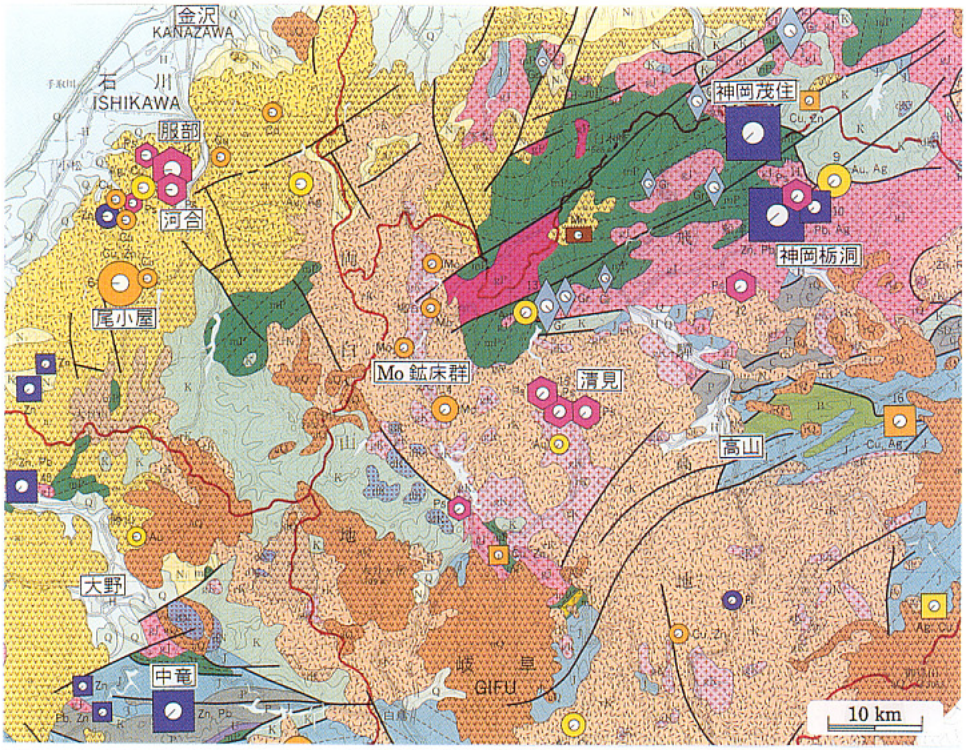
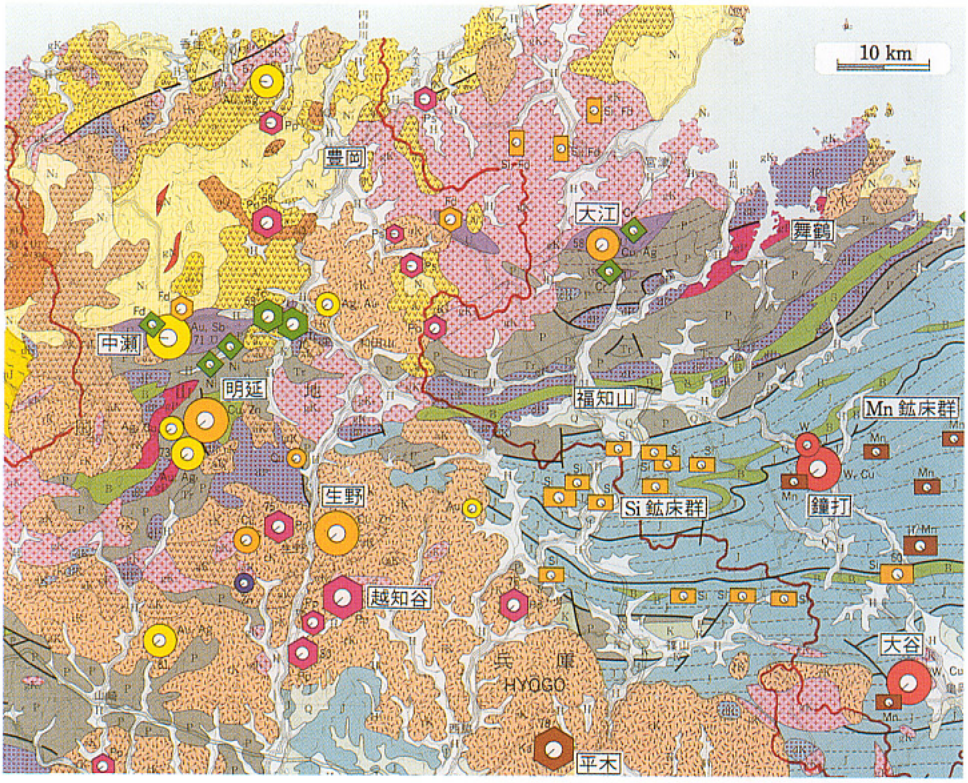
50万分の1鉱物資源図 No.4「中部近畿」

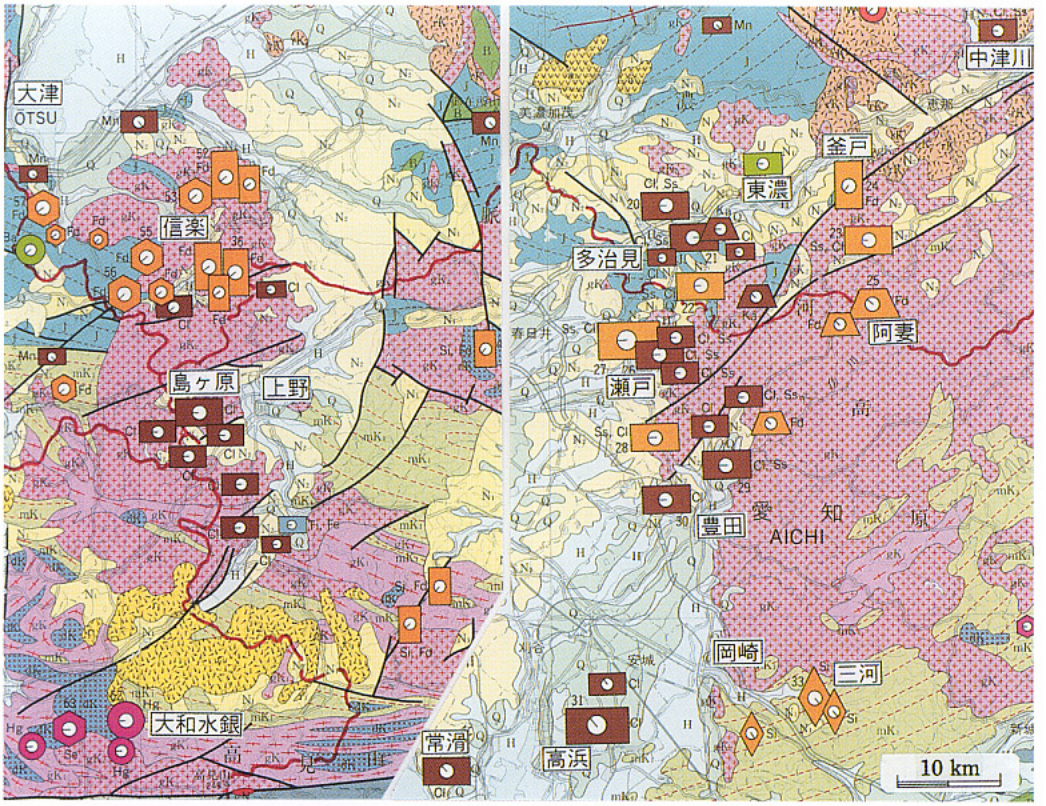
須藤　定久・小村　良二（地質調査所）

1. 飛騨山地の巨大鉱床（神岡鉱山周辺）：北東隅に神岡鉱山の茂住及び栃洞鉱床．中央部には白川郷のモリブデン（Mo）鉱床群，南西隅に中竜鉱床，北西側には服部・河合陶石鉱床，尾小屋鉱床が見える．



2. 白亜紀後期の鉱床群（生野～明延地区）：西部に中瀬，明延，生野鉱床が並び，その南にはろう石やカオリン鉱床が分布する．東部には鐘打・大谷鉱床があり，周辺には丹波帯の珪石（Si）・マンガン（Mn）鉱床が多数見られる．





3. 信楽の長石鉱床群(左)と瀬戸周辺の珪砂・粘土鉱床群(右). 信楽:多数の長石鉱床の南には島ヶ原の粘土鉱床群, 南西隅には大和水銀鉱床が見られる. 瀬戸周辺:粘土・珪砂の鉱床が密集し, 周囲には東濃ウラン鉱床, 釜戸長石鉱床, 阿妻長石鉱床, 三河珪石鉱床が分布する.

4. 瀬戸キャニオン(愛知県珪砂鉱業協同組合鉱山):日本を代表する大規模鉱山である. 瀬戸の街の北側丘陵につくられたこの巨大な採掘場から, 年間250万トン以上の珪砂・蛙目粘土・木節粘土・瓦粘土などが採掘される. 日本とは思われない広大さのゆえに瀬戸キャニオンと呼ばれる.

(関連:本文56ページ)